

最近,おもしろかった本

『ミラノ 霧の風景』

須賀敦子 著 白水Uブックス 914円(税込)

繊細な筆遣いで描かれる
イタリアでの生活, 人々との思い出

会員 林 紀子 (20期)



静謐な雰囲気あふれる随筆集である。

著者(昭和4年生まれ, 平成10年没)はイタリアに留学し, その後ミラノの書店や出版社に集う人々と文学的な親交を深め, その一人のミラノの男性と結婚した。結婚生活6~7年で夫はなくなったが, 夫の協力も得て漱石, 鴎外から, 谷崎潤一郎, 川端康成, 安部公房, 庄野潤三などの作品のイタリア語訳を手がけた。日本に帰国してから, 13年にわたるイタリア生活や人々の思い出をつづった短い随筆をまとめた作品の1冊がこれである。

この本で1991年に, 文壇では全く無名の著者が「女流文学賞」を受賞した。

タイトルになった随筆は, かつては冬のミラノの名物であった深い霧にまつわるエピソードとともに, ミラノの人がその匂いを愛し, 霧とともに生きる様子が

描かれる。そして著者のそれらに対する新鮮な驚きと共感が懐かしい思い出として淡々と語られる。

他の随筆には, イタリアで知り合った友人, 同僚, 田舎の人たちとの交流が, 著者の繊細な筆遣いで, イタリア各地の息遣いとともに描かれている。

決して豊かではない生活のようであるが, 夫妻の文学(特に現代イタリアの詩)への愛着と文学的教養の深さや, イタリア各地の人との交流が, 著者の生活をととても豊かなものにしている。その素直さで読者の心も洗われるような気持ちとなる。

この本の姉妹本ともいえるべきエッセイ集がいくつかあり続けて読みたくなる。

「最近, おもしろかった本」というタイトルなのに, 古い本を取り上げ恐縮だが, 最近では最後まで気持ちを通わせられる本を読んでいないのでお許しいただきたい。